



第74回日本臨床眼科学会

The 74th Annual Congress of Japan Clinical Ophthalmology

木-IC07 水晶体・白内障

眼内レンズ位置矯正および摘出交換の適応と手術手技

[演者] 松島 博之:1, 柴 琢也:2, 塙本 幸:3, 永原 幸:4

1:獨協医大, 2:六本木柴眼科, 3:はねもと眼科, 4:国立国際医療研究センター病院

日-展示(ショートトーク)-7-024 水晶体・白内障

後囊破損及びチン小帯断裂眼の IOL 摘出交換時に水晶体嚢を温存し毛様溝挿入した 1 例

[演者] 桑野 和沙:1

[共同演者] 増田 洋一郎:1, 山脇 佳子:1, 大澤 朋子:1, 林 怡嫻:1, 黒澤 芽衣:1, 柴 琢也:2, 中野 匡:1

1:東京慈恵医大, 2:六本木柴眼科

白内障のエビデンス
by Cataract Evidence Club

これでバッチリ!

命題
~知っているようで知らない強度近視~

演者 座長

強度近視への角膜乱視矯正
手術の注意点 ~強度近視眼に対する白内障手術~

強度近視眼のIOL度数計算はこれで決まり!!

強度近視眼の眼軸長測定はこれでバッチリ!

宮田眼科病院 森 洋育先生
慶應義塾大学 小島 隆司先生
北里大学 神谷 和孝先生
六本木柴眼科 柴 琢也先生

宮田眼科病院 宮田 和典先生

New standard, Cataract Refractive surgery

"What is New standard?"

エビデンスが全て ~眼内レンズの選択~
座長・演者 宮田 和典 先生
宮田眼科病院

屈折精度に拘る 白内障手術の真髄
座長・演者 岡本 茂樹 先生
岡本眼科クリニック

白内障手術の変革
座長・演者 柴 琢也 先生
六本木柴眼科

座長抄録

元来、医師はエビデンスを元に患者の治療にあたる。そこで、重要なはそのエビデンスの質である。そこで我々は、臨床で直面する白内障の諸問題を、いわゆる個人的な感想や不十分なデータによる評価ではなく、臨床研究をもとにした確固たるエビデンスを元に解決する白内障エビデンスクラブを立ち上げた。メンバーは、白内障分野でこれまで十分実績を上げてきた臨床研究のエキスパートたちである。エビデンスクラブの第一回目のテーマは、強度近視とした。強度近視に対する白内障手術は、その術式、IOL 度数計算、角膜乱視の取り扱いなど、臨床において誰もが一度は悩んだことがあり、議論の多い問題である。本セミナーでは六本木柴眼科の柴先生より強度近視眼に対する白内障手術について、慶應義塾大学・中京眼科の小島先生より強度近視眼の眼軸長測定について、宮田眼科病院の森先生から強度近視眼の IOL 度数計算について、最後に北里大学の神谷先生から強度近視眼への角膜乱視矯正について十分なエビデンスを元に検討していただく。本セミナー内容が先生方の明日からの臨床に応用できるエッセンスとなれば幸いである。

座長抄録

近年、白内障手術は著しく進化し精度の向上を求められているのは誰もが周知のことである。数年前までは多焦点眼内レンズ白内障手術に対する患者期待値が高く、それ故白内障手術により高い屈折精度を求められることから Cataract Refractive surgery と言われるようになった。しかしながら、現在では多焦点眼内レンズ白内障手術のみならず単焦点眼内レンズ白内障手術においても高精度を求められる時代となり、それが New standard となりつつある。そのため本セミナーでは Cataract Refractive surgery が New standard となる状況に対応するため、まず六本木柴眼科の柴先生より白内障手術の変革と進歩について、次に岡本眼科クリニックの岡本先生より白内障手術全例に術中波面収差解析装置を使用しているその理由について、最後に私から白内障手術において患者の眼に長く残り、目の代わりとなる眼内レンズの選択の重要性とその基準についてお話させていただく。そして最後に各先生方から自院での COVID-19 対策について供覧し、一人でも多くの先生方に本セミナーをお聴きいただき、これからの New standard を一緒に構築していきたい。